

令和5年度

中学生の

「税についての作文」

入選作品集

日野市



南多摩納税貯蓄組合連合会

※受賞者の方から承諾を得られた範囲で掲載しております。

日野市長賞

税金という存在の大きさ

日野市立日野第三中学校

三学年 三塚 優菜

五歳のとき、私は病院で「川崎病」と診断された。川崎病は、特に生後六カ月から六歳に発症しやすく、原因不明の病気である。発症すると全身の血管に炎症がおきて、悪化すると心筋梗塞を引き起こしたり重度の後遺症が残ることもある。そのため当時五歳だった私は入院し、すぐに治療を受けることになった。免疫グロブリン製剤という薬を二十四時間、静脈内に点滴することで、全身の炎症を抑えて冠動脈瘤ができるのを防ぐというものだ。約二週間の入院では点滴や薬を服用する日々を送った。退院したあとでも後遺症が残ってしまう恐れがあったため、退院してから約五年間は定期的に病院に通い、検査をしてもらう必要があった。

しかし、これらの治療や検査を受けるには高額なお金がかかる。支払うとなるととても厳しい金額だったと思う。それでも私が治療や検査を受け続けることができたのは「税金」や「こども医療費助成制度」などの存在があったからだ。そのおかげで医療費の大部分が税金で賄われ、医療費の負担が減った。今の私があるのは、もちろん病院の方々や両親のおかげでもあるが、税金や助成制度が支えてくれたおかげともいえるだろう。

このように、病院などで治療や検査を受けるための費用の大部分が税金で賄われている。私たちは税金によって、高額な医療費のかか

る治療や検査を受けることができるのだ。私たちの生活が税金によって支えられていることは、他にもたくさんある。例えば、救急車もその一つであり、税金によって賄われている。救急車の運用は行政サービスのひとつとされており、原則無料で利用することができる。他にも警察・消防・道路整備・ゴミ収集・義務教育などがあり、挙げればきりがない。このような税金によって支えられている社会にもし、税金がなかったらどうなっていただろう。川崎病と診断された私は、病院で十分な治療や検査を受けることができず、今のような元気はなかったかもしれない。今まで、税金は何のためにあつて、どのように利用されているのか考えたことがなかった。しかし、私たちが十分に治療を受けられて、安心して生活することができるのは税金のおかげであるという意識を持つことができた。

私たちが税金によって支えられていることは、決して当たり前なことではないと思う。きちんと税金を納めている納税者がいることで成りたっている。それを踏まえ、誰もが安心して生活ができて納得のいく税金の使い道を考え、当事者意識を持って行動していきたい。

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

織りなす税

日野市立三沢中学校

二学年 角山 生海

二〇二〇年十月、父の体に癌が見つかり、

私達家族の闘病生活が始まりました。突然すぎる出来事に戸惑う私を取り残すように流れていく日常に、不安を募らせていたのを覚えていきます。そんな中で父は、私達に謝りながらも、「大丈夫だから。」と繰り返して安心させてくれました。母も、私と弟に、病気が見つかるまでとなるべく変わらない生活をさせてくれました。母もまた、父と同じように、「大丈夫。」と繰り返してくれました。

今回、税についての作文を書くことになり、自身と税の関わりを思い返してみたところ、当時のことを思い出しました。あの時は目の前のことで精一杯で、私にはお金のことを気にする余裕などありませんでしたが、両親はきっと考える必要があったと思います。それでも心から「大丈夫。」と言い安心して治療に専念できたのは、高額療養費制度や医療費控除など、国の歳出総額の約三割を占める「社会保障関係費」から成る様々な助成制度が私達を支えてくれたからだだったと知りました。そのことについて母に尋ねると、「出来る限りの治療をするための経済面はもちろん、精神面でも大きく助けられた。」と教えてくれました。

父が居なくなつた今も、税はまた形を変えて私達を支えてくれています。ひとり親家庭になつても、変わらず学校に通うことができ、

大好きな部活も最後までやり遂げることができました。これからの進路を自由に選択する幅を奨学金制度に与えてもらいました。これは、元気だった頃の父が納めていた税金が巡り巡って今の私を応援してくれているように思えるのです。

私には大きな夢があります。それは、父と同じ救急救命士になることです。もしも夢が叶ったときには、給与をもらい同時に税金を納めます。この時に、ただ義務的に給与から差し引かれてしまうものと思うのではなく、この税が誰かの笑顔に繋がりを、それを支えられる自分を誇らしく思いたいです。それこそが、自分を育ててくれた社会へ向けて、私ができる恩返しです。

これからも、沢山の税という愛を感じながら、感謝という強い気持ちをもって、夢に向かい進んでいきます。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会
優秀賞

「顕微鏡って誰が買ってんの？」

日野市立三沢中学校

三学年 長谷川 凜香

私は、理科室にいるとき、ふとこう思った。

「なぜ理科室には人数分の顕微鏡があるのだろうか。」顕微鏡一台二万円、顕微鏡が一クラス分の四十台あるとすると、それだけで八十万円かかる。もちろん、理科室にある実験器具はそれだけでない。ガスバーナーや電流計、試験管に至っては無限に湧き出てきそう。中学校三年間で使用する実験器具は思い浮かべればたくさんある。それらが合計でいくらかかるかを計算したら、とんでもない額になりそうだ。

では、誰が実験器具を買っているのか。実は、国や市区町村が支払っている。つまり、ここで税金が使われているのだ。さらに、理科の教育を税金で補助するための法律があり、「理科教育振興法」、通称「理振法」と呼ばれている。これは学校に必要な理科、算数、数学教育に必要な設備を購入する際、国に申請することで国や国から地方交付税交付金を受けた地方自治体が事業を行うことで補助を得られるしくみである。このようなしくみのおかげで、理科室に必要な分の実験器具が揃い、

平等に十分な実験を行える環境が整うのだ。授業で理科室に来たとき、その都度使用する道具が揃っているのが当たり前だと思っていた。しかし、このような事実を知ってからは、税金によって理科の授業がより豊かなものに

なっているのだと気付かされた。

また、税金によって補助されているのは実験道具だけではない。体育用具や机、椅子、教科書などにも税金が使われている。教科書の裏に「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれているのを見たことある人もいるかもしれない。学校の中の多くのものが税金が使われている。義務教育期間の九年間の生徒一人あたりの公費負担額は一千万円以上となる。これが税金なしに全て自己負担となると、家計的にかなり苦しくなるだろう。子供を育てたいと思う人が増え、子供の数が減ったり、個々で教育を受ける環境に差が出て平等性に欠けたりしてしまうこともあり得る。

このように、私たち学生は、見えない誰かさんが払った税金によって教育を受けられる環境にすることができている。税金によって一人ひとりに教科書、机と椅子がある当たり前が生み出されているのだ。今まで教材と税金を関連づけることはなかったが、「増税」といわれてマイナスなイメージを持っていた税金をプラスに捉えることができた。これからは、税金によって作られた当たり前の教育環境に感謝しながら日々の学校生活を過ごすように思う。

日野税務署長賞

「税金」というツール

日野市立三沢中学校

三学年 河東 綺波

私は他の中学生と比べて、年間で外出する回数が少ない部類だと感じている。特に夏に入ると、太陽が燦燦と輝いている様子を見て、直ぐに冷房の効いたリビングでテレビをみつけ出す始末だ。実際、今年の夏もそうである。

そんなある日、いつもなら見ないニュース番組の、とある話題が目にとまった。それは、今年の記録的な猛暑日と、熱中症救急搬送者数増加についてだった。なんでも、東京都心の猛暑日日数は、去年を上回り十七日と、年間最多記録を更新したらしい。確かに、最近嫌に暑いからなあ。と、冷風にあたりながらぼんやりと考えていた。その時、ふと頭に「熱中症救急搬送者数増加」という文字が再度浮かび、実際はどのくらいの数なのだろうかと思ひ、調べてみた。すると、そこには驚きの事実が記載されていた。

総務省消防庁によると、今年の七月二十四日から七月三十日までの熱中症救急搬送者数は、なんと一万一千七百六十五人まで昇ったという。因みに昨年の同時期は七千二百三十七人だったと書かれていた為、今年の異常気象についても領ける。そして私はふと思った。

「搬送者数が増加しているという事は、救急車を運用する機会が増加する為、運用費用がより高くなってしまうのではないか。」と。

こちらまで調べてみると、またもや私が驚く様な事実が記載されていた。救急車を利用す

る人は、日本国民は勿論、旅行等で日本に来ている外国人でも、日本国内に居れば費用はかからないというのだ。では、運用費用は何処から来るのか、ここで登場するのが税金だ。さて、幾らくらいの金額がかかるのだろうか。

救急車の一回あたり出勤する為にかかる費用が、約四万五千円と言われている。それに令和四年度の救急車出勤件数をかけると、単純計算で、年間約三千二百五十億円以上の費用が必要となり、それらすべてが税金で賄われていると分かった。

「そんな金額を支払っていたなんて。」と、驚く人や意気消沈する人もいるだろう。しかし、世の中には、救急車の走行距離に応じて金額を請求される国も複数存在するという。それらを踏まえて考えてみると、税金という存在が有難く思えてくる。

このように、税金は私達の目に見えない所で活躍している。自分の知らない誰かや何かの為に思いついて納めることで、巡り巡って自身へと返って来る。つまり、税金は国民同士を結ぶ、一つのツールと言っても良いのではないだろうか。そう思いながら、納税をしていきたいと実感した。

東京都八王子都税事務所長賞

助け合い、支え合い

日野市立日野第四中学校

三学年 高木 栞那

あたりまえの「日常」、それは何によって支えられているのだろう。

私は、よくニュースを見ている。その中で、国会議員の人たちが、私たち国民や日本の課題について話し合っているが、一番の課題であるのは、「税金」であり、それに対する国民の意識だと考える。私たちは、税金に対して、マイナスなイメージを持ちがちであるが、道路、学校、普段飲む水道水、そんな一つ一つの暮らしを支える多くの物が税金によって作られている。税金を払うのは国民、その税金は、私たちお互いを助け合える一つの手であるのかもしれない。

ある時私の家族は、税金に助けられたことがある。それは、コロナウイルスが流行していた夏休みのお休みのときのことだ。兄は仕事で、私は部活に明け暮れていた日々、突然、父がコロナウイルスにかかってしまった。その看病をしていた母もかかってしまった。私はとても悔しかった。コロナウイルスが流行していたために、部活の練習も試合も少ない形で行っていた。その発症日が私のひさしぶりの試合だった。試合は休み、外出も出来なく、食事に悩んでいた時に、政府のホームページで、行政サービスを見つけた。そこには、ご飯も、即席のみそ汁も飲み物も一週間足りる程のサービスを受け取り、使わせてもらった。もちろん、サービスは、税金によっての

物だった。当時の私と家族は、とても助けられたことを覚えている。コロナウイルスのワクチン接種も、医療費も全て税金によって支えられ、私たちが助けられていた。このように周りの物は、政府が国民を思い、築りあげて守られている。コロナウイルスによって、マスク生活や消毒し続ける日々も、だんだんと改善しつつある。それは、私たちが手洗い、うがいや消毒を行った努力のおかげかもしれない。でも、税金によって状況が変化してきたのも、一つのきっかけかもしれない。こんな風に、税金の使い道は、星の数ほどある。そして、税金によって支えられているのも一つの事実だ。中学生の私にとっても、税金は私の未来を手助けしてくれる大切な手である。私たち国民は、一人一人が税金を払う義務があると同時に、税金は私たちが幸せに平和に日常を送れるようにしてくれるものでもある。もし、税金を払うことに抵抗があるのなら、身の回りを見てみるといい。税金が支えてくれる物が必ず一つはあるから。情報が早く回る社会になってきたからこそ、自分の意見や考えを発信してみることも一つの手である。自分から、税金の使い方への提案をすることも可能である。

一人一人の国民が、税金をただ払うだけでなく、意見や考えを持ち、伝えることができたら、この国はもっとよりよい場所になる。あたりまえの日常は、税金が支えてくれている。そのことを頭のかたすみに、そっと入れておいてほしい。

東京税理士会日野支部長賞

ローカル線を維持するために

日野市立三沢中学校

三学年 佐内 響

近頃、車窓の絶景や魅力的な駅、観光列車などからローカル線の魅力が再発見されている。私自身も、これまでに幾つかのローカル線を旅し、様々な発見を得た。ただ、そのほとんどが赤字に苦しみ、鉄道での存続が厳しくなっている。実際に、毎年のように廃駅や廃線となったニュースが流れ、JR北海道は現在四十二駅の廃止を検討している。そのような状況の中、新たな鉄道の維持の形として注目されている交通税について調べた。

二〇一七年の十二月、滋賀県を走る近江鉄道が鉄道事業継続の難しさから沿線自治体や滋賀県に支援を求めた。これに対し、二〇一九年にインフラ整備と運行を分担する上下分離式が提案された。ただ、この方法だと第三セクターと同様に自治体の負担が大きくなり、多額の税金が必要となる。このことから、結局、自治体は鉄道の存続を前向きに考えられないのである。この問題を解決するために、

昨年の四月、滋賀県は交通税の導入の検討を始めた。この交通税は、先程説明した上下分離式と違って、沿線自治体だけでなく県民が等しく税を負担するものである。これは、県全体の公共交通機関の維持を図ることを目的としている。交通税の導入によってどのようなメリットが得られるかは、既に導入しているフランスの例から理解できた。

一九六〇年代、車社会化が進んだフランス

で鉄道の経営状態は悪化していた。また、利益が少ないとサービスや設備の質も悪くなり、鉄道はさらに追いこまれていった。そんな中、一九七一年に交通税が導入され、鉄道の経営状態は徐々に回復していった。公共交通機関の利用者が増えたことで車の利用者は減少し、渋滞の緩和も向上した。結果的に運営にかかるコストが高くなったものの、フランスでは三十以上の都市でトラムが復活している。

このように、交通税の導入は公共交通機関の維持だけでなく、サービス向上による利用者の増加、つまり交通手段の多様化により車などへの偏りを防ぐことにも貢献している。これ程にも恵みをもたらす交通税が日本で導入されない背景には、受益者負担の原則、という考え方があった。公共交通機関の場合は、利用者が維持費を負担し、利用しない者は負担しなくて良い、というものである。当然、維持費の負担は難しく赤字となるので、この考えこそが廃止へと追いこむ根本といえる。しかし、私は利用者もそうでない者も平等だと考える。鉄道の例以外でも、私たちは税金を通じて教育や生活の場を与えてもらっているが、もしその援助が無ければ子を持つ家庭は膨大な金額が必要となり、学校に行けない子が増加してしまう、というように子を持つ家庭ともたない家庭が公平に負担している。これと同じように、鉄道の廃止は自治体、そして国が衰退することを招く。私は、一律で廃止とはせず、交通税を基盤とした政策を導入し生活路線を守ることを祈るばかりだ。

南多摩納税貯蓄組合連合会会長賞

期待の新税

日野市立日野第二中学校

三学年 茅野 有紗

「きれいだね」

母はそう言いながら右の方を指差した。そこには驚くほどきれいな緑色をした山々と、その下に輝く湖がとても美しく映えていた。私たち家族はこのような大自然の中に毎年キャンプをしに訪れている。毎年訪れる度に私たちが住む町にはない鮮やかな木々の緑色に圧倒されているが、このような森林を守つていくためにも、税金が必要であるため、来年度（令和六年度）から「森林環境税」という国税が課されることになる。

た。その税金の使い道として、湖の清掃や湖での船上スクールを開催したりしているという。このような、様々な自然に対する税には、国民の生活を豊かにするためであったり、環境と向きあうための意味あいがあるということとを調べていくなかで知ることができた。この作文を書いている途中、「一人一〇〇〇円かあ」などと、少しマイナスな事として捉えてしまうこともあったが、より深く知ることとその気持ちやだんだんと、「日本の森林がもっと魅力的なものになるといいな」と、プラスな方向へ捉えることができた。

これからの日本の森林がこの税によってどんな変化を遂げるのかとても楽しみだ。

「森林環境税」とは、国内の森林保全や維持管理、林業を成長産業化させることを目的として創設された税である。調べてみると、この税金は国民一人につき年額一〇〇〇円が徴収されるようだ。これに対し、「国民生活の困窮を招く」や、「経済の低迷につながる」などといった批判の声も挙がった。しかしこの税金により、ある環境問題の改善も期待できることが分かった。それは、地球温暖化である。森林保全が積極的に行われることで二酸化炭素の排出量が削減できるという。また、災害の防止を図ることも期待できる。この税金が使われることで土砂崩れやなだれが起りやすい場所も改善されていくのではないかと私は考える。さらに環境に関する税について調べてみると、森林だけでなく、湖に対する税も導入している地域もあることが分かつ

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

もしも、明日から税がお金じゃなくなつたら？

日野市立日野第一中学校

三学年 岡山 菜月

私達の国の税は、昔は米であった。それは遠い過去のことであり、現代では金銭を納めている。日夜、国民が働き通し稼いでいる訳だが、もしもこの税が、明日から金銭ではなくなつたらどうなるのだろう。

例えば、また米に戻つたら。そうやってしまえば、お金は今ほどの価値を持たなくなり、物々交換が主流になっていくと思う。そして米はいつしか金銭に成り代わっていくかもしれない。米を財布から出して直接やり取りするのは難しいため、米に代わるチケットのような物や、スマホ決済アプリのような物を携帯することになるだろう。もしもこうなつたときのメリットは、食料自給率が上がる事、米食が主流となり肥満の人が減る事、食料不足の解消となる事などだと思う。環境にも良いはずだ。近年は農業従事者が減少しているため、なり手を増やすには最も効果的ではないだろうか。

しかし、デメリットもたくさんある。国民のほとんど全員が稲作に携わることになれば、技術力が大きく衰退し、教育レベルも非常に低下することとなるだろう。他の国々から大きく遅れをとってしまうえば、戦争や差別など甚大な被害をもたらすことになる。税が金銭ではなくなるなんてことは、とても現実的な話ではないのだ。

私はこの作文を書くに当たって、「金銭が金

銭たる由縁」について深く考えることとなった。言ってしまうえばお金なんてただの金属と紙である。今にも飢え死にしそうな人なら、迷いなくダイヤモンドの塊より一斤のパンを選ぶだろう。それでも私達が金銭を欲するのは、需要と供給だとか、生活レベルや教育レベルだとか、収入と支出だとか、そういったものの均衡がとれているからこそなのだ。それでこそ成り立っている賜物といえる。日常生活を送っているとふと、「なぜこんな金属と紙のために頑張っているのだろう」と思うことが多々あるけれど、金銭は全てのもので繋がっている。私達は、金銭が金銭であるために、この世の様々なもののバランスを守つていかなければならない。

小さい頃は「皆にたくさんのお金を配れば全員が幸せになれるのに」と思っていた私がこのように考えられるようになったのは大きな進歩だ。小学校で習った社会、中学校で習った歴史や公民などから得た、たくさんの方の知識を活かして書くことができた。これからも国民の一員として様々な事を学び続け、大切な金銭について考えていきたい。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

私達の夢を支えているもの

日野市立日野第一中学校

三学年 斉藤 瑚侑

最後の大会を来月に控えたある日の練習中、私の左足首に激痛が走りました。私は野球をやっている、一番難しいとも言われているポジションのファーストを守っています。捕りづらい送球がきておもしろい走り足で踏み出したときに足首をひねってしまったのです。これまでも何回か捻挫を経験しています。しかし、今回の痛みはいつもと違いました。地元の病院では、靭帯損傷と診断されたが、いくら安静にしても痛みが軽減さえすることはなく、まともに歩くことすら困難になりました。焦ってきた私は、母にお願いして都心にあるかかりつけの大病院に連れていってもらいました。エコーやX線検査が行われて医師から告げられた言葉は、「時間が経ってから判明する種類のものですが、骨折ですね。」目の前が真っ黒になった私の肩を、母が無言で優しくポンポンと叩きました。母に背を向け、涙をこらえながら、全治二ヶ月なら大会には間に合わないだろうという絶望と共に、隣にいる母と一緒に頑張ってきた仲間に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。きっと母は私を心配して気遣ってくれるだろうと思い、少し歳のはなれた兄と姉に相談しました。

「まずは治すことを一番に考えなさい。それに、世の中には税金というものがあって、きつと治療費、これからのリハビリ代など助けになってくれると思うよ。」

確かに、この世の中に税金があることは知っていたし、気になって調べてみたこともありました。しかし、働きについてはよく覚えていませんでした。今回、当事者としてホムページでサービスマン内容を見ると、新しい発見の連続でした。兄が高校生だった頃は、0歳から中学三年生までの子育て支援医療証は、現在十八歳までに拡大されており、病院での診察料や治療費、入院費や薬代、現在三回目接種を終えたコロナワクチンも税金によって助成されています。霧が晴れた気分になりました。

必死にリハビリをした結果、月末の大会に間に合わせる事ができた。リハビリで苦しくなったときに安心感と勇気を与えてくれた医師の言葉に感銘を受けました。お金のことを気にせずに治療することができた支援医療には本当に感謝しています。最後の大会で優勝することはできなかったが、何よりも思いっきりプレーして最後の最後まで仲間と戦えたことが嬉しかったです。コロナやインフルエンザが流行っている時期、時代で皆が不安や不満を抱えているからこそ、将来の子供達に伝えたいです。納税の意味について、そして、私達大人が支えているから心配ないよ、と。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

未来を創り、笑顔を守る税金

日野市立日野第二中学校

三学年 荒田 紗幸

「自分は新型コロナウイルスには感染しないからワクチンは打たない。」

私の祖父は今年で八十四歳になる。普段は、毎朝ウォーキングをし、毎晩きな粉牛乳を飲んでカルシウム補給をしている健康的な祖父である。しかし、糖尿病を患っているため、新型コロナウイルスに感染すると重症化してしまう可能性が高かった。

ある日、新型コロナウイルスが少し落ちついたため、祖父母は関西の方へ二泊三日の旅行に行った。帰ってきた時、祖父は三十八度の熱を出してしまった。これはもしかしたらと思い、病院でPCR検査を受けた。結果は新型コロナウイルス陽性だった。今までは感染しないようにと、買い物はネットスーパーを利用して外出を控えたり、いつも一年に二、

税金がどのように役立っているのか私は分からなかった。しかし、私たち中学生でも誰かのためになっているし、誰かに感謝されていることが分かった。何気なく支払っていた税金が、人を助けていた。税金は、わたしたちの未来をつくっている。

三回は遠くに住んでいるところが祖父母の家に遊びに来るが控えてもらったり、たくさん対策をしていた。そのおかげですつと感染していなかったため、油断してしまったのだろう。私たちは重症化の覚悟をした。しかし、なんと祖父はたった一日で熱が下がった。新型コロナウイルスの自宅療養期間が明けた後、祖父母の家の近くに住んでいる私は、祖父の様子を見に行った。そこにはいつも通りの元気で明るい祖父がいてとても安心した。

生活習慣病を持っている祖父が重症化せず、後遺症もなかったのは新型コロナウイルスのワクチンのおかげだった。祖父はすでに三回打っていた。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

「ひび割れのひどい空の下で」

日野市立日野第四中学校

二学年 湯本 泰央

え気にせずに生きています。

その日は冬という字に良く似合う真っ白な空をしていました。…まあ、雪など一片も落とさない曇天だったようですが。とにかくその日、僕は「硬軟口蓋裂」という病を持って生まれました。口の天上部分にあたる硬口蓋と軟口蓋に裂け目が入った状態で僕は生まれたのです。口の中に問題があったので、哺乳が思うように上手くいかず、食べ物や飲み込み込み込むのが難しかったと親から聞きました。言うまでもなく親には迷惑をかけました。

このまま生きていけば、おそらく僕は国民として消費税以外の税金も納めることになるでしょう。僕はその税金が「人のために使われるのであれば」喜んで納税させていただきたいのです。僕のように物心つく前から苦しんでいる子どもたちやその親御さん方を納めた税で「気づかないうちに助けてる。」水道や道路の整備に税金が使われていて「気づかないうちに助けられてる。」僕が納税した〇〇円が何に使われているかはわかりません。それなら、何に使っていただいてもいいのですが人のため、何なら動物の、生き物のために使ってほしいと、今はただそれだけを切に願っています。

その時手を差し伸べてくれたのが税金だったのです。口蓋裂の手術というのは一歳頃に行われることが多いようで、僕も生まれて一年と二十日後に手術を受けました。ですが、治療費は百万円を超えていました。そこで、支援制度を受けて治療費の九割を税金で負担してもらうことができました。色々な方々のおかげで手術は成功し、通院を繰り返すうちに食事の問題なく行えるように。物心ついたときには保育園で他の子達と遜色なく遊んでおり、口蓋裂のことを知ったのはおそらく小学生の頃だったかと。口蓋裂は食事以外にも言葉の発音や容姿にも影響を与えるが、僕は他の人と比べても「滑舌がよくない」程度のもので、特に自信があるわけではないものの特段変わった部分などはないのではないかと。つまり僕は、人様に迷惑をかけておきながら、

これを書いている八月下旬。台風で天気は大いに荒れており、降ったり止んだりを幾度も繰り返す気分屋な空。窓から顔を出すと、晴れとも曇りとも言えないような微妙な空。そんな空でも、長い時間見ていると時折、僕が生まれた日の空を想像します。所々が黒ずんでいて、まるでそこから雲が「裂」けて、これでもかと日差しが入りこんできそうな、そんな、ひび割れのひどい空の下で。

自らはハンディキャップを抱えていたことさ

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

他国支援に使われる税金

日野市立三沢中学校

三学年 清水 琉衣

外金融資は、日本では限界があることでも他
海外の国に任せることでより良い効果を生み
出せるのではないかと考えました。

私は以前、道徳の授業で日本人が発展途上
国に行き様々な技術を伝えたという話を聞き
ました。私は「この日本人の方々はボランテ
ィアで来たのだろうか？」と思いました。そ
こで調べてみると、このような海外への支援
には税金が使われていることがわかりました。

私はこのような活動にも税金が使われてい
るのだと知らなかったため、感銘を受けまし
た。そして興味を持ったため、今回は他国へ
の支援に使われる税金について調べました。
主に調べたことは、どのような形式で他国を
支援しているのか、支援にはどのような種類
があるのか、またこの制度の課題についての
三つです。

日本は、国際連合や国際開発金融機関にお
金を出す方法と、特定の国に対して直接支援
する二国間贈与の二つで他国支援をしていま
す。特に前者は、より多くの国が支援を受け
ることができるといふメリットがあると知り、
このような仕組みがあるのかと驚きました

また、二国間贈与には無償資金協力、技術
協力、円借款や海外投融資などがあります。
道徳の授業で知ったのは技術協力で、これは
知識や経験などを伝え、その国の技術面の向
上を目的としています。海外投融資は他の海
外の民体団体にお金を出すことで、発展途上
国の経済を活性化させ雇用を増やしたり、技
術移転をすることが狙いとわかりました。海

このように他国支援のための税金について
調べていくと、この制度には課題があること
がわかりました。二〇〇八年で日本の国際連
合に出したお金の数は、アメリカに次いで約
二百六十億円で二位でした。これには高い評
価を受けていますが、日本は国の運営を国債
で賄っているため、この制度に税金を使うこ
とに賛否両論あるそうです。なので、国の情
勢に合わせて変えていくべきと考えました。

以上の調査から、税金は日本や私たちの身
近なところだけでなく、他国支援にも使われ
ていると知りました。私は税金が公共整備や
学校の設備に使われていることは知っていま
したが、他国支援にも使われているとわかり、
「知らないところで他国の人を助けることが
できてよかったな」と思いました。しかし、
問題点があることもありました。なので、ペ
ットボトルキャップでワクチンに変えるなど、
他国支援する方法は沢山あるので調べて実践
したいと思います。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

消費税

日野市立三沢中学校

二学年 河合 優里

先日、「税の作文、何を書こう」と思い、それをボソツと口にする、母に

「ドイツの消費税率って何パーセントか知ってる？」

と聞かれました。私は、日本の消費税率はどんどん高くなっていて、十パーセントだと知っていたので、日本は他の国より消費税率が高いものだと思っていました。そのため、日本よりは高くないだろうと思っていました、そのあと、母は答えとして、

「十九パーセントだよ。」

と答えたのです。驚きました。そんなに高いなんて思いもしませんでした。この出来事から私は、日本と海外の消費税率の違いについて気になったため、調べてみることにしました。

まず、一番消費税率の高い国は、ハンガリーで二十七パーセント。そして、一番低い国は、台湾やカナダで五パーセントだそうです。ハンガリーの二十七パーセントは、とてもびっくりしました。調べてみて、ヨーロッパ諸国では高い消費税率が設定されており、アジア諸国では低くなっている傾向があることが分かりました。しかし、消費税率が低いアジアの方が住みやすいかといえば、そうとも言いきれないようです。理由として、税率の高い国は、福祉医療が充実していることが多いことが挙げられます。例えば、ハンガリーでは、基本的な食料や医療品、生活必需品

などは、消費税が五パーセント軽減され、病院での診察代と学費は無料です。

このことから、私は、今まで消費税が高いことはあまりいいイメージがありませんでしたが、安ければ安い方がいいということでもない、と感じました。なぜなら、商品を購入した時にかかる税金が少ない国と、税率が高くて、例えば、医療費や教育費などが無料の高福祉国家と、どちらが住みやすいでしょうか、という調べた資料の問いかけに迷ったからです。

税金は、社会保障のためや少子高齢化の今、必要とされているものです。消費者の私たちは、「増税はいやだ」と思ってしまうかもしれませんが、不満を言うだけでなく、しっかりと税と向き合っていくべきだと思います。税金はどのように使われるのか、正しく使われているのか。税を納める一人として、調べ、理解していくことが大切だと思います。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

私が選んだ橋

日野市立三沢中学校

二学年 安川 美咲

「使い道は何にしようかな。」

私の父が、ふるさと納税を利用するときに、ぼつりと言った。地域からの返礼品を心待ちにしていることは明らかだが、納める税金の使い道を自分で選ぶことも楽しいらしい。住んだことがある山形市では、健康の保持・増進、健やかな子どもの育成、山形ブランドの浸透と交流の機会、環境保全、チャレンジできる環境の創出、等が税金の使い道の選択肢として掲載されている。選択肢ごとに具体的な事例が紹介され、自分が負担する税金がどのように使われていくのかを想像できる。街づくりにもっと参加した気分になれることが嬉しいようだ。

ふるさと納税は、「ふるさとを元気に」を指し、始まってから十五年が経過した。その間の寄付額は累計で四兆円を超え、そのうち九割が地方の自治体に寄付されたとされている。寄付される自治体に偏りがあるなど、さまざまな課題も出ているようだが、参加者が増えていることは確かだ。

税金は約五十種類あるとされる。国が集めるものは国税、地方の自治体が集めるものは地方税、個人の所得にかかるものは所得税、法人の所得にかかるのが法人税、商品やサービスを消費する際にかかるものは消費税と大別される。何にでも税金がかかる、税金が高くて困る、と口にしてしまうのも頷ける。

税金は負担が話題になることが多いが、活用されるシーンはあまり目にしない。八王子市は、民生税（お年寄りや障がい者に対する福祉、保育園などの子育て支援、生活保障など）、衛生費（保健衛生・医療・ゴミ処理など）、教育費（小中学校教育・生涯学習の充実、スポーツ振興など）、土木費（市道・橋・公園の整備など）、消防費（消防にかかる費用）といった税金の身近な活用事例をホームページで紹介し、税金がなければ学校や救急車、信号、ごみの収集など公共サービスがなくなると掲載している。税金の必要性を確認することができる取り組みだ。

税金の使い道を市民が決める仕組みとして1%支援制度というものがある。市民が納税した税金のうち1%分を市民が任意に選択する地域で活動するボランティア団体などの活動資金に振り向ける仕組みだ。市民参加型として注目を集めたが、制度の煩雑さもあり、あまり採用されていないようだ。世界では参加型予算は広がりを見せているとされており、ふるさと納税で使い道を選択することとも似ている。1%支援制度が伸びず、ふるさと納税が伸びていることに、返礼品の力を感じてしまうが、橋を渡るたびに、私が使い道として選んだ橋だと感じられるような参加型の制度をもっと増やすことで、税金の大切さをより身近に感じられると考えている。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

建物の耐震化助成について

日野市立大坂上中学校

三学年 齊藤 礼実

私は税金の使い道や内訳について思うことがあります。私の父は大地震によって建築物に被害が生じないようマンションや学校、病院などの耐震補強設計の仕事をしています。その際に、国や都、市から助成金を頂いていると聞いています。国が目指す「国土強靱化計画」の一貫として建築物の耐震化を進めているようです。今日、世界中で起こる大地震で建物が壊れて多くの人々の命が失われるニュースを見る度に建物の耐震化は大切な事業だと感じました。多くの人が生活する建物が大地震で被害が生じ、大切な命が失われることや被害が生じた建物を修復しなければならぬ状況になった場合、被害にあった人の精神的、金銭的な負担が大きくなることを考えるとき、建物の耐震化が本当に重要であると思います。そのために使われる税金は直接、人々を守る貴重なお金であると思いました。また地震はいつ起こるか分からない未知の自然災害であり、早急な対策が必要であると感じます。また父から木で造られた古い一軒屋の建物は低く、震災時に建物が倒壊してしまう可能性があると聞きました。耐震補強工事は一般的に金額が高く、何百万もかかってしまうため、国や都の助成金がないと実際の工事は難しいのが現状のようです。古く建てられた戸建て住宅の耐震化は地震の多い日本において大切なことだと思いました。十分な助

成金制度を作成して急速に耐震化がすすむといいなと思います。また大地震時に避難所となる建物、病院等の耐震化も非常に重要だと思います。災害時に避難所となる建物の耐震補強工事の助成は十分な金額を用意することが大切だと感じます。現状、自然災害である大地震がいつ発生するか不明であるため、そのための研究費を税金から算出して未来の地震の予測が可能になったら素晴らしいと思います。また私は父の話を聞いて、助成金を十分に算出することが大地震による死者や被害を減らすことにつながる、ということを学びました。

成金制度を作成して急速に耐震化がすすむといいなと思います。また大地震時に避難所となる建物、病院等の耐震化も非常に重要だと思います。災害時に避難所となる建物の耐震補強工事の助成は十分な金額を用意することが大切だと感じます。現状、自然災害である大地震がいつ発生するか不明であるため、そのための研究費を税金から算出して未来の地震の予測が可能になったら素晴らしいと思います。また私は父の話を聞いて、助成金を十分に算出することが大地震による死者や被害を減らすことにつながる、ということを学びました。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

社会全体で見守る子育て

日野市立大坂上中学校

三年生 坂口 奈緒

今年の三月に、いとこのお姉さんが女の子

を出産しました。このコロナ禍で、結婚式や新婚旅行も延期になってしまい、一年程挙式できるタイミングを待っていましたが、国内旅行に変更し、旅先で二人だけの結婚式を挙げました。大好きなお姉さんのドレス姿を実際に見ることができずとても残念だったので、赤ちゃんが産まれたと聞いてお姉さんたちに会いたいと強く願っていました。

そして、この夏休みによく会うことができた赤ちゃんは生後四ヶ月になっていても可愛らしく、目が合うとにっこり笑って、私や周りの人を幸せな気持ちにしてくれました。お正月や夏休みによく遊んでくれたお姉さんは、すっかりお母さんになっていて、赤ちゃんのお世話をしていました。

お姉さんは、旦那さんの仕事の都合で、知り合いが一人もいない地域に三人で暮らしています。私はお姉さんのことが心配になり、「初めてのことばかりで大変じゃない。」と聞きました。お姉さんは、

「大変だけど、色々な人に助けってもらって頑張っているよ。」

と話してくれました。

妊婦検診は、住んでいる市からの補助で受けることができたそうです。パパママ教室では、妊娠中の体調変化や栄養についての勉強もできて、不安なことは相談することもでき

たということでした。産後も、家庭訪問や赤ちゃん検診で初めての子育てでの色々な疑問や悩みを聞いてもらったそうです。病院を受診することの多い子供にとって、医療費の補助も大変ありがたいことだと教えてくれました。

お姉さんから聞いた話は、税金の使われ方を身近に感じるものでした。赤ちゃんの成長が税金にも支えられているということを知り、社会全体に見守られているような気持ちになりました。実家から遠く離れて子育てをしているお姉さんにとって、とても心強いことだと思います。

今の私にも、税金によって守られていることがたくさんあります。中学生として勉強や部活動に安心して取り組むことができるのも、税金の支えがあるからです。私も大人になったら、自分の納めた税金が知らない誰かの安心になっていると自信を持ち、知らない誰かの納めた税金が自分の安心になっていることに感謝して、納税によって社会を支えながら自分も支えられているということを忘れず、しっかりと税金を納めていきたいと思えます。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

税金に過ぎたる宝なし

日野市立大坂上中学校

三学年 長竿 紀杏

まうと、感染者数は増え続け、コロナ問題は今よりもずっと深刻化していたはずだ。このことに気づいた私は、税金で救われる命もあるんだなと思ひ、税金へのありがたみを感じた。

二〇一九年十月、消費税が八パーセントから十パーセントに増税された。そのニュースをテレビで見ていた当時の私はこう思っていた。「税金？ 消費税？ ナニソレオイシイノカナ」と。

そのときの私は全く税金に興味がなかった。しかし、ある日を境にして私は、税金の大切さに気づいたので。

緊急事態宣言。学校は休校。外出自粛。人の顔も見れない。コロナが流行し始めて、私はただ不安だった。そんな中、私はコロナワクチンを受けに行った。注射が終わって、帰ろうと接種会場を出ようとしたとき、私は「そういうお金を払っていないけど平気なのかな」と疑問に思った。そのことを一緒に来ていた母に伝えると、「コロナワクチンは公費負担だからお金を払わなくていいんだよ」と教えてくれた。公費？知らない単語が出てきた。だから私は、家に帰ってそのことについて詳しく調べてみることにした。

公費とは、私たち国民が商品を買うときに払う消費税や働いている人が納める所得税を集めたもののことをいうとわかった。つまり、コロナワクチンは、税金があるから私たちは無料で打つことができていたのだ。もし、ワクチンの費用が自己負担だったら「お金なし、打たなくていいや」とワクチンを打たない人が多くいたかもしれない。そうやってし

また、コロナ禍において、税金はワクチンだけに使われたわけではないということも調べてわかった。コロナの検査費、入院費、給付金、GOTOトラベルキャンペーンなども税金が使われているのだ。コロナが流行して不安だった私は、「税金が守ってくれるから平気かも」と自然と思うようになり、暗いニュースが続く中でも、少し希望を見出すことができた。この日、私は税金の大切さを理解し、それから税金に目を向けるようになった。税金が八パーセントから十パーセントに増税されたときは税金のことを全く知らなかったが、今なら「税金ってなに？」と尋ねられたら、すぐに答えられる自信がある。税金とは、国民の生活を豊かに幸せにしてくれる国の「宝」なのだ。そして私は、この作文など様々な活動をとおして、「宝」の大切さを世に伝え、守っていききたい。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

税金のあり方

非公表

三学年 林 莉子

「生活保護だから。」この言葉を身近に感じな

がら私は小学校生活を送っていた。家庭の都合により母子家庭となり、周りの環境が変わった。もちろん金銭面にも負担がかかり、「これからどうするのだろう。」と子供ながらに考えていた。そんなときに生活保護、という仕組みに出会った。母が正社員として働けなかった事情もあり、この生活保護にとっても助けられた。今までの生活から大きな変化なく普通の生活を送ることができたのも生活保護があったからだと思う。

この生活保護制度は、国民の生活困窮の程度に応じて必要な保護を行い、健康で文化的な最低限度の生活を保障し自立を助ける制度である。扶助の種類は大きく分けて八種類あり税金や家賃などの生活に必要な費用が免除される。私が主に実感できていたことは、交通費の免除である。土日は必ず習い事に通っていたため毎週、公共交通機関を利用していった。その時に、母から渡された定期券は生活保護を受けている人のためのものだった。自分がしたいことや好きなことにとり組むことができたのも、このような身近な費用の免除があったおかげだと思う。また、母に他に免除されていた費用はあるのか聞いてみた。なんと大人の医療費やメガネ代も免除されているということだった。私はちょうど小学校高学年

に上がった頃にメガネを買った。だからその

費用も生活保護に助けられていた、と考える
と生活の一部として支えられていたのだな、
と実感することができた。母子家庭という周
りと少し違う環境の中でも税によって普通の
生活を送ることができていたのだな、と思っ
た。

今、日本では少子高齢化が進み年金問題などが話題となっている。一方で出生率は減少傾向にあるため将来の働き手の負担が大きくなると考えられている。税金は国民のためにあるものだが増税や少子高齢化はやはり、一人一人に大きな負担を与えてしまう。二〇二〇年に消費税が増税し、今後の生活にどう影響していくのか、とマイナスに考える人が多かったと思う。私もその一人だ。しかし、私は生活保護によってあらゆる面で税に助けられてきた。この国から支給された補助金はもとをたどれば国民一人一人が支払っている税金だ。自分の知らない誰かがその日の夕飯のために払った何気ない税金が私だけでなく、国民それぞれを助け、支えている。それは私自身にも同じことが言えて街中ですれ違う人たち誰もが必ず誰かを税金によって支えている。このようなことを生活保護を通して実感することができた。私は納税が自分のできる身近な人助けとして、その大切さと必要性を理解し、受け入れられる税の未来があつてほしい。

南多摩納税貯蓄組合連合会優秀賞

国を支える税金

非公表

三学年 飯塚 実咲

私は通院している。家からバス停まで歩いて、バスに乗って病院に行く。この行動だけでも税金があふれている。

まず、家からバス停までの歩道が整備されている。これは、今回の場合なら市からの税金、国道や地方道なら、国税、地方税によって整備されている。次にバスが通る道路の整備にかかる費用の大部分は、ガソリン税や自動車税などでまかなわれている。また、移動手段であるバスも税金の一部を補助金として運営している。

「税金なんてなくなればいい。」という言葉をとたまに聞いたりする。たしかに、税金がなくなれば、物の価格が低くなるし、家の出費が少なくなるけれど、実際税金がなくなったらどうなるのか、予想してみる。

今回も先程の事例を元に考えていく。まず、道路や歩道、橋などが整備されなくなってしまう。そうなってしまうと、それらが壊れたりしても修復されずに多くの被害者が出てしまうかもしれない。また、歩道が整備されないということは、ゴミ回収もされずに町の環境が悪くなり、それは大気汚染にも繋がり、地球環境にも影響を及ぼす可能性がある。

次に、バスを含めた公共交通機関が経営できなくなり、通勤・通学が不便になり、交通が絶えるだけでなく、社会に多くの支障が出てしまい、国がまわらなくなってしまう。

入院する時、祖母に入院代の大部分を支払ってもらった。ふと「高齢者はどのようにして生活しているのだろう。」と思った。調べると、老後に「年金」という税金によってまかいてあった。もし、税金がなくなり、年金制度がなくなったら、老後病気になるったり、働けなかったり、身体がうまく動かせなくなっても自分たちの備えだけで生活しなければならなくなる。そうなると生活に耐えられなくなる人も出てくるだろう。すると少子高齢化が進む今、日本の人口は減ってしまい、町づくりの発展が衰えてしまうことなどから社会的、経済的に危機に陥ってしまう。

例に挙げてきた、大気汚染、交通手段の不便、人口の減少など、税金がなくなるだけではない。このような社会の問題が生まれてくることから、税金の重要性、大切さがわかる。また、税金を払うことによって町などの環境が整備されていることから、税金は社会の循環に大きく貢献している。